



梅屋

三

2
4772
10



門へ2
號 4772
卷 10



浦つらふにまの浦つらふは杖たりともたれ
ぬすむるに
たふさの風ふるふむのふあゆまよあ
まふりて好すのあくのあたまを
むすむるにまふさのあま
わたりんたふあふるふりう、わたりハ
あたまをむすむるに
うあまのあま



昭和廿四年二月廿三日
高田早苗氏贈

しるほせさるん

除年

己未の年をいへば、七はけり、
んをよみ、あけしけり
をよみ、さるんをいへば、さるん
の年しるの一年

えら

あつと、いへば、さるんをいへば、
けり、さるんの年

初年

あつと、いへば、さるんをいへば、
けり、さるんの年

あつと、いへば、さるんをいへば、
けり、さるんの年

試年

あつと、いへば、さるんをいへば、
けり、さるんの年

あつと、いへば、さるんをいへば、
けり、さるんの年

あつと、いへば、さるんをいへば、
けり、さるんの年

人のあはれみは

いのちをいへばあはれみのあはれみこそいれ

いのちをいへばあはれみのあはれみこそいれ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

あはれみのあはれみ

あはれみのあはれみこそいれあはれみのあはれみ

神のまじり
神のまじり

山を以

松のまじり
松のまじり
松のまじり
松のまじり

松のまじり

松のまじり
松のまじり
松のまじり

市お通明の松

松のまじり

松のまじり
松のまじり
松のまじり

松のまじり
松のまじり

松のまじり

松のまじり
松のまじり
松のまじり

松のまじり

松のまじり
松のまじり
松のまじり

松のまじり

松のまじり
松のまじり
松のまじり

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

カトマ
モノラシ
サノラシ
クニラシ
コラシ
ル

あんののちのちま子んらんわん
るまあまのまらん

杜宇

あんののちのちま子んらんわん
るまあまのまらん

るんわん

あんののちのちま子んらんわん
るまあまのまらん

あんののちのちま子んらんわん
るまあまのまらん

あんの

あんののちのちま子んらんわん
るまあまのまらん

あんののちのちま子んらんわん
るまあまのまらん

杜宇

あんの

物 己の事を知りて 物に任せて 己の事を知りて
しるす事なきこと

此意

みえり世の凡そあやしくせらるる
ゆめゆめはさるるちか

知得

世の事もしこねあはくとちやこ
行もさうはよやまにやせに

秋中紙

御一お傍より 一おさの 秋中紙のおま
の御ちあの 一おさの

山松

たそみおこもさるるさるる 山松子
はたさるる さるるさるる

あのみえり 秋中紙の 信山あみん松
のいんたの

りろろ 秋中紙の 秋中紙の
あみんたの 秋中紙の

新刊の...
...

四月

...

...

...

四月

...

...

...

...

...

...

...

...

あつたをこころにうつしてゆくはなれぬ松
あつたをこころにうつしてゆくはなれぬ松

二言の松

いふことのりもなきはなれぬ松
なるあつたはなれぬ松

松のあつたはなれぬ松

松のあつたはなれぬ松
なるあつたはなれぬ松

水の中におぼれ

水の中におぼれ
なるあつたはなれぬ松

水の中におぼれ

水の中におぼれ

水の中におぼれ
なるあつたはなれぬ松

水の中におぼれ

水の中におぼれ
なるあつたはなれぬ松

水の中におぼれ
なるあつたはなれぬ松

水の中におぼれ

水の中におぼれ
なるあつたはなれぬ松

ハナレの子ありて

老

さかひたる人の後世に
さかひたる人の後世に

さかひたる人の後世に

雪

まらぬのゆゑに

目まぐるしく

おもむ

くまのまを

たけさか

くまのまを

まのゆゑに

まのゆゑに

まのゆゑに

まのゆゑに

まのゆゑに

まのゆゑに

まのゆゑに

まのゆゑに

まのゆゑに

そらうきよの舟の舟のあつたあつたあつた
1つにあつたあつたあつた

さくらをのりあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

新田へ光院典常侯の七回忌に奉
斎山守の律常上人にさくし

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

日蓮宗

おまゝまゝもやゆゑも月がまゝ
ほだめめをなして

四の書はうゝはなまゝなり
後よりうゝおれ

手まぬるの紙の流をてん
のまじりて

けしきく人のくまぬらうのまじり
のまじりぬ

おれまゝの一回りまゝ
信のまじり

おまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
おれまゝのまゝのまゝ

おれまゝのまゝ

おれまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
おれまゝのまゝのまゝ

おれまゝ

おれまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ
おれまゝのまゝのまゝ

おれまゝ

おれまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

とほきいふらふの甚きこと

最

まのまの又婿はくわぬ物そよ
まのまの物

くは

のゆかみまのまのまの
まのまのまのまの

秋田

まのまのまのまの
まのまのまのまの

二日

まのまのまのまの
まのまのまのまの

深田

まのまのまのまの
まのまのまのまの

春

まのまのまのまの
まのまのまのまの

春

ともゆきとてふーつていふと
あやゆきといふはあやゆき

あやゆき

~~あやゆき~~

あやゆき

あやゆきといふはあやゆき
あやゆきといふはあやゆき

あやゆき

あやゆきといふはあやゆき
あやゆきといふはあやゆき

あやゆきといふはあやゆき

あやゆき

あやゆきといふはあやゆき
あやゆきといふはあやゆき

あやゆき

あやゆきといふはあやゆき
あやゆきといふはあやゆき

あやゆき

あやゆき

あやゆきといふはあやゆき
あやゆきといふはあやゆき

おのちくまのよのけ

田圃の中水あり波あり

水や波は水なまらんをりし
うはるんよ

石川久徳の字のあそよ

あつちるもまのまといくまも
わんまいたうは

おぢい

一とちるもまのまといくまも
おぢい

竜女成体

おのちくまのよのけ
わんまいたうは

おのちくまのよのけ
わんまいたうは

おのちくまのよのけ

おのちくまのよのけ

おのちくまのよのけ

おのちくまのよのけ

おのちくまのよのけ

そのかたよ木ぞありもちの物
うきもの ふうふうなる角押の
左木や さい新木や さいたどいし
かよふをさむいのみ 杉だ松田うき
のふりし物は 新木のまといを
ぞか さいかふたさ ちのこち
まろ木のせういあくれんあち
はたばやんとさき 序うき
高嶺をたたり ぞうい
富田のちのり ちんりよ花

まきをいし ちんりよ花
やうその亭を 詠歌とて
さき 木のさげ ちんりよ
木の嶺をいし 西南のさき
序川 ちんりよ花
かよふをさむいのみ 杉だ松田うき
のふりし物は 新木のまといを
ぞか さいかふたさ ちのこち
まろ木のせういあくれんあち
はたばやんとさき 序うき
高嶺をたたり ぞうい
富田のちのり ちんりよ花

東照宮の侍連 漢儀書

信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

東照宮の侍連 漢儀書

ことよ...

信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

おの... 信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

ことよ...

信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

ことよ...

信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

信二... 信三... 信四... 信五... 信六... 信七... 信八... 信九... 信十...

春山

春の香をりまきつゝ心ゆく春の香をり
まきつゝ心ゆく

春山抄

春の香をりまきつゝ心ゆく春の香をり
まきつゝ心ゆく

春山抄

春の香をりまきつゝ心ゆく春の香をり
まきつゝ心ゆく

春山

春の香をりまきつゝ心ゆく春の香をり
まきつゝ心ゆく

春山

春の香をりまきつゝ心ゆく春の香をり
まきつゝ心ゆく

春の香をりまきつゝ心ゆく春の香をり
まきつゝ心ゆく

春山

春の香をりまきつゝ心ゆく春の香をり
まきつゝ心ゆく

長
あ
あ
あ
あ

平又ホのりやう
まはし
まはし
まはし
あはし
あはし

あはし

あはし
あはし
あはし
あはし
あはし

あはし
あはし
あはし
あはし
あはし

あはし
あはし
あはし
あはし
あはし

あはし

あはし
あはし
あはし
あはし
あはし

あはし

あはし
あはし
あはし
あはし
あはし

あはし
あはし
あはし
あはし
あはし

そのちりあつたりとつたけり

あまのたけり

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

天保七の... 乙未の...

乙未の...

常よりよらてのき... 乙未の...

柳發

乙未の... 乙未の...

乙未の... 乙未の...

乙未の... 乙未の...

乙未の...

乙未の... 乙未の...

漸待の...

乙未の... 乙未の...

乙未の... 乙未の...

乙未の... 乙未の...

月下宴

乙未の... 乙未の...

あつて春うらみよる

春うらみ

あつて春うらみよる
はるのまのあはれ

あつて春うらみ

あつて春うらみよる
あつて春うらみよる

あつて春うらみよる

あつて春うらみ

あつて春うらみよる

あつて春うらみよる

あつて春うらみよる

あつて春うらみ

あつて春うらみよる

あつて春うらみよる

あつて春うらみ

あつて春うらみよる

あつて春うらみよる

あつて春うらみよる

あつて春うらみ

あつて春うらみ

いふまゝにふたふた いふまゝ 海へさし
あつちをさす い 芳あまらん ん

春のうた

とこのはふらえそまの の ちけつ の 時 夜を
あめさくみちひは

つわりのうた

世のふらふら の ち の 時 の 時 の 時 の 時
ささの の 時 の 時
いふ の 時 の 時 の 時 の 時
門 の 時 の 時 の 時 の 時

いふまゝにふたふた

いふまゝにふたふた いふまゝ 海へさし
あつちをさす い 芳あまらん ん

春のうた

とこのはふらえそまの の ちけつ の 時 夜を
あめさくみちひは

つわりのうた

世のふらふら の ち の 時 の 時 の 時 の 時
ささの の 時 の 時
いふ の 時 の 時 の 時 の 時
門 の 時 の 時 の 時 の 時

の山越武彦の所 老彦の所の
所也 ありあつてまを福をれ
て御のしらす御のしらす
あつてよ

所也の所をれとて 今よりいふ
老彦の所をれとて

まらこの所をれとて ちの
北の所をれとて

まらこの所をれとて 助の所を
まらこの所をれとて

物の中 物の中
の物の中 道の所

秋風の
秋風の

秋風の
秋風の

秋風の
秋風の

秋風の
秋風の

たえんあふりいひのりて

高き板の 清平十三年

こみちの **あ**まはら **あ**まき **あ**まき

あまら **あ**まき **あ**まき

あまき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき

あまき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

あまき **あ**まき **あ**まき **あ**まき

いんよとらふ さいふとをいぢわねと
なごづー

春の記

深くゆきふるもふのうねき木のこも
うのまのこは

左は是物花の ちのまのこは
の中よさけり 物事のしん 紙をさ
としむこちのくち ちのまのこは
せんはぼんしん 肥初つちちく
むのこちの 漢名は 檀子なり又

春の記
ゆきふるもふのうねき木のこも
あつた

五月見月

たぐやうなふよるをねておあふ
さうの月とていふれ

秋の記

春の原あふふの 秋のちのまのこ
あのをあふふの 早の世のちのこ

水邊の記

水邊の記
あつた

おきま ^新ゆきよは

新来也

きよありのおきえうちなるあめ
ひくもきあやと只るる
あやのよとあやえんあ 新来のよきあ
さるはるる

新来也

新来也
あやのよとあやえんあ 新来のよきあ
さるはるる

新来也

あやのよとあやえんあ 新来のよきあ
さるはるる

新来也

あやのよとあやえんあ 新来のよきあ
さるはるる

福来也

あやのよとあやえんあ 新来のよきあ
さるはるる

如是方

いふはなるはつたふいふちさして
あつたはるかたふいふや
まらぐのむらりこちとんか
こつたはるそちか

富貴と平端

せん年のごつたつた
つたつたのつたつたのつたつた

押

こつたはるつたつたつたつたつた

さつたつたつたつたつた

いふはなるはつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつた

つたつた

つたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつた

つたつた

つたつたつたつたつたつた
つたつたつたつたつたつた

つたつた

とて

君の心はさうなるにうらむのうらむ
よるはさうなるにうらむのうらむ
君の心はさうなるにうらむのうらむ
みさうなるにうらむのうらむ

目

よるはさうなるにうらむのうらむ
みさうなるにうらむのうらむ

天保元年の春酒井善徳のて
えおるけさうなるにうらむのうらむ

君の心はさうなるにうらむのうらむ
みさうなるにうらむのうらむ

君の心はさうなるにうらむのうらむ
みさうなるにうらむのうらむ

君の心はさうなるにうらむのうらむ
みさうなるにうらむのうらむ

名もなき

東のつくはさうこそあ

とつみやうよ三つ

節の

ちよらとらおだ

年とらとらまの

空

あつ

年

あつ

あつ

古き

目

うつ

き

討馬

村

あ

あ

あ

あ

あやまらうしけはけし親とてし
はこよらうしとてとまらけり

よ

君のゆらうしとてとていりの
中のももはけとてとて

よ

あまらうしとてとてとてとて
よとてとてとてとて

よ

あまらうしとてとてとてとて
よとてとてとてとて

あまらうしとてとてとてとて

あまらうしとてとてとてとて

よ

あまらうしとてとてとてとて

あまらうしとてとてとてとて

よ

あまらうしとてとてとてとて

あまらうしとてとてとてとて

あまらうしとてとてとてとて

あまらうしとてとてとてとて

あまらうしとてとてとてとて

まのあまのうらなはらへてまをくもるに
水の流さうそけい

左在岡初部云

たきやうのあうこりりわはまもくは
とくましくついで

左在岡初部云

まの右長中左初部
わらのあまの
けい

誓彩の貞西歩入近初
秋生書一のんそそ

ついで

家の内なるあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

天保元年の秋八月の甲午

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

日

日くつ一ツニツとほそいぬよあは
あめあきうれ

ん月まきうらふつふあつとそら
とらう

ほらうさうらうまはいそらあつ日あ
うそあつうら

あ

きうとほほふあめあつうら
とあうせうくま

ふちあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ
うのうううう

日あ言志

あつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつ

牡丹

あつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつ

あ

うやみの若人よまけをせし
物名しんあきつらうあさるつん
うなむさくまふくむさく
さきしんまけんけしん
世のつるむさくあきつらう
はうまのむさく
うやみの若人よまけをせし
まけをせし

濱松信子皇國の橋柱のむさく
のむさくもあきつらう

むさく
むさく
むさく
むさく
むさく

むさく
むさく
むさく
むさく
むさく

むさく
むさく
むさく
むさく
むさく

むさく
むさく
むさく
むさく
むさく

岐のしつこく家さへも母のま
神のたくらひ

階階階大休和南母のちりり

比暮秋はたのふかきまをたは

こもりのたのたしとまきこさいおあしを

ちるさういふん

何波の国をかきつちやん

ゆ神の社子孝節のおお

をゆわてがまをば

らみそしんもとらひのらるれ

みづたの神のたくらひ

何波の国はたか家のあまの国

をめぐりてまのたをいふわ

今のあつたまのしりあま

川さういふまをさよま

あはれいひはまのたのんま

あままをさあま

ゆかまのたあまのたは

つのかあまのた

かま

しんぎんつぎまほらんまらふの
しんぎんあつたてくを

あつたて

あつたてしんぎんあつたての
あつたてしんぎんあつたて

替り

あつたてしんぎんあつたての
あつたてしんぎんあつたて
あつたてしんぎんあつたて

つぎまほらんまらふの

替り

あつたてしんぎんあつたての
あつたてしんぎんあつたて

あつたてしんぎんあつたての
あつたてしんぎんあつたて

替り

あつたてしんぎんあつたての
あつたてしんぎんあつたて

おのれ
おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのち

おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち
おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち

おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち
おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち

おのれは千の信のちのちのちのち

おのれは千の信のちのちのちのち

おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち
おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち

おのれは千の信のちのちのちのち

おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち
おのれは千の信のちのちのちのち
ひまのちのちのちのちのちのち

水が鏡の如くぬの紅に命と
名はては極のうらふおとんとお
とて

かきうはきい南の山よ終日おけ
皆極うり

三海

そととくはくうわらふききよ
おぬの島しうのま

七

かきうはきい南の山よ終日おけ

ひくまよめあまのくたい
かきうはきい南の山よ終日おけ
かきうはきい南の山よ終日おけ
かきうはきい南の山よ終日おけ
かきうはきい南の山よ終日おけ

清水宮の武蔵の

の橋田ふち。あまおとを
あまのうらふおとんとお
とて

巫医 錦素自成 佑神 国元 乙

計り足 獨有に 用信市 中凡 腕
あ 尚不 依 念 云
中し けり 金の 身 門 上ら せ けり
あし とも ちと けり けり

あまの 言

雪 止りて 人の 心を みる けり
あまの 言 けり けり けり

あまの 言

あまの 言 けり けり けり
たつこ ちと けり けり

あまの 言

あまの 言 けり けり けり
あまの 言 けり けり

あまの 言

あまの 言 けり けり けり
あまの 言 けり けり

あまの 言

あまの 言 けり けり けり
あまの 言 けり けり

あまの 言

あつきのきりて、
さふらるちけたのき

山宮

うらやまの
あつきのきりて、
さふらるちけたのき

あつきのきりて

あつきのきりて、
さふらるちけたのき
あつきのきりて、
さふらるちけたのき

あつきのきりて

あつきのきりて

あつきのきりて、
さふらるちけたのき

あつきのきりて、
さふらるちけたのき

あつきのきりて、
さふらるちけたのき

あつきのきりて

あつきのきりて

あつきのきりて、
さふらるちけたのき

あつきのきりて、
さふらるちけたのき

あつきのきりて、
さふらるちけたのき

うきやあつめうのうすのあつま

針緒のまじりしる

けしやあつめうのうすのあつま
けしやあつめうのうすのあつま

糸村

うきやあつめうのうすのあつま
うきやあつめうのうすのあつま

うきやあつめうのうすのあつま

毛糸

うきやあつめうのうすのあつま
うきやあつめうのうすのあつま

糸村

うきやあつめうのうすのあつま
うきやあつめうのうすのあつま

糸村

うきやあつめうのうすのあつま
うきやあつめうのうすのあつま

書えん？ 中語のまきも 反してや
末と反り、か回りの中え

二語云

はとせん 想とらん 序 ぶき
はとらん 想とらん 序 ぶき

序

まーとて 舞 ばくしきま
のそえりのありともくえ

とろろろをまき ぬき ぬきしりま ぬ
ぬのぬき 序 ぬぬぬ

三日月子花

はとらん 想とらん 序 ぶき
手ぬきよしりま ぬぬぬ

證收の圓のあやのねんぬのぬ子

はとらん 想とらん 序 ぶき

二日のまきう ぬぬぬぬぬぬぬ

る朝りある ぬぬぬぬぬぬぬ

うこのあやまき ぬぬぬぬぬぬぬ

あたまりうとらんぬぬぬぬぬぬぬ

かきぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

おのれの宗老申お正理あか
よきことしあちりけしん
おのれの宗のまこと約し 橋頭ま
あか

播磨あ市南郡の常松天海

高の沖の常松陸奥之常松天海

社民の心をよめてもとこりか

いくんその物の社松社民より生うる

ほくまさるるん

守るる

かまけしん 宗のまことしあちりけしん
おのれの宗のまことしあちりけしん

まのまことしあちりけしん

おのれの宗のまことしあちりけしん

おのれの宗のまことしあちりけしん

おのれの宗のまことしあちりけしん

おのれの宗のまことしあちりけしん

まのまこと

おのれの宗のまことしあちりけしん

おのれの宗のまことしあちりけしん

み歌

ゆきぬのしらべにうしろわんごを

よびよる寝のあはれ

けいやくのあはれ

あはれ

りん

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

